



のんぼり洗い

「寒ざらし」とも言われる、鯉のぼり作りの際の染め付けに使った糊を五条川で洗い流す作業「のんぼり洗い」は、市の初春の風物詩です。市内には400年以上の伝統を誇る幟店があり、平成17年には、いつまでも残したい美しい景観として「東海美の里百選」に選ばれました。

大寒の時期だけではなく、「岩倉桜まつり」の際にも実演が行われ、桜のアーチの下で行われる伝統の風景は、多くのメディアにも紹介されています。また、稚児が腹に抱きついていてるデザインも、市の鯉のぼりの大きな特徴です。



▲市下水道マンホールのデザインにも使用されています。



岩倉五条川の桜

岩倉五条川の桜は、昭和24年頃、市(当時は岩倉町)がまちおこしとして約300本の苗木を植樹したことが始まりです。現在では、市と市民活動団体などが協力して桜の保護・育成を行っています。

春に咲き誇る桜のほとんどがソメイヨシノで、その数は約1,300本。市の中心部を約7.6kmに渡り南北に流れる五条川の両岸から伸びた桜の枝がアーチを作り、その美しい風景は日本の「さくら名所100選」にも選定されています。

毎年3月下旬から4月上旬に行われる「岩倉桜まつり」には、市外・県外ばかりでなく海外からも多くの花見客が訪れます。岩倉五条川に架かる26本の橋の上からの眺めを含め、尾北自然歩道の桜並木は市民の誇れる景色として、市のシンボルになっています。